

一関工業高等専門学校

吉田正道(一関工業高等専門学校)

一関工業高等専門学校は、即戦力となる技術者の育成を目的として、昭和39年（1964年）に創立された国立高専の一つです。この年は、日本で初めてオリンピックとパラリンピックが開催された記念すべき年でもあります。創立当初は機械工学科2学級、電気工学科1学級の編成でしたが、産業界の変遷に対応するために、昭和44年度には化学工学科が増設され、さらに平成元年度には、機械工学科の1学級が制御情報工学科に改組されました。その後、化学工学科から物質化学工学科へ、及び電気工学科から電気情報工学科への名称変更を経て、本校は、4学科体制（機械工学科、電気情報工学科、制御情報工学科、物質化学工学科）を平成28年度まで継続してまいりました。その間、平成13年度には、さらに高度な技術者教育を目的とした専攻科が設置されました。その後、技術分野の多様化に対応できる新しいタイプの技術者育成を目指して、平成28年度から学科編成を大きく見直し、1学科（未来創造工学科）4専門系の新しい編成となりました。

ここでは、以下、簡単に本校の特色などを紹介させていただきます。

1. 本校の所在

一関高専は、東北6県の一つである岩手県の最南部に位置する一関市に立地しています。岩手県は日本で一番面積の大きい県で、東は太平洋に面する風光明媚なリアス式の三陸海岸とその背後に広がる北上高地、西は東北地方の背骨と呼ばれる奥羽山脈を隔てて秋田県と接しています。それらに挟まれた県の中央部は、北から南へ全国4番目の大河である北上川がゆったりと流れています。その流域は北上盆地と呼ばれ、岩手県の穀倉地帯であるとともに新幹線や高速道路などの主要交通網が集中しています

(図1参照)。また、人口もこの盆地に県内の70%近くが集中し、北から南へと県庁所在地である盛岡都市圏をはじめとする4つの経済圏が連なっています。一関市はこのうちの最も南の一関経済圏の中心都市（岩



図1 岩手県地図

手県の南玄関口の街)であり、東京から新幹線でほぼ2時間の距離にあります。全市人口は11万人余りで、西方には全山紅葉で有名な栗駒山を望み、北上川支流の磐井川が市街地を縫って蛇行し、その周りを水田に囲まれた静かで落ち着いたたたずまいを持つ内陸の街です。近隣には、世界文化遺産である平泉の中尊寺や毛越寺などがあり、また陸中海岸国定公園への玄関口にもあたることから、『栗駒・三陸・平泉、ここの起点が一関』とされています。

2. 学校の概要

本校は、一ノ関駅から西へ3km西方に位置し、磐井川と住宅地に囲まれた閑静な場所に立地しています(図2参照)。一ノ関駅(在来線と新幹線)からは、自転車で15分程度の距離で、95,000㎡の敷地内に、寮施設(寮生数:357名)を含めて、各棟が図3のように配置されています。本校の特色の一つとして学科構成は1学科(未来創造工学科)4系制(機械・知能系、電気・電子系、情報・ソフトウェア系、化学・バイオ系)となっており、工学という

学問分野を社会のニーズを考慮して、多様性の観点から捉えた専門分野構成になっています(図4参照)。学生は2年生から個々の希望を基本として各系に分かれます。入学定員は160名、1年生から5年生までの学生数は861名、さらに、6,7年生に当たる専攻科には、51名の学生が在籍しており、女子学生比率は、約18%程度です。学生総数のうち約80%が岩手県内、残りが宮城県北部



図2 一ノ関駅からのアクセス

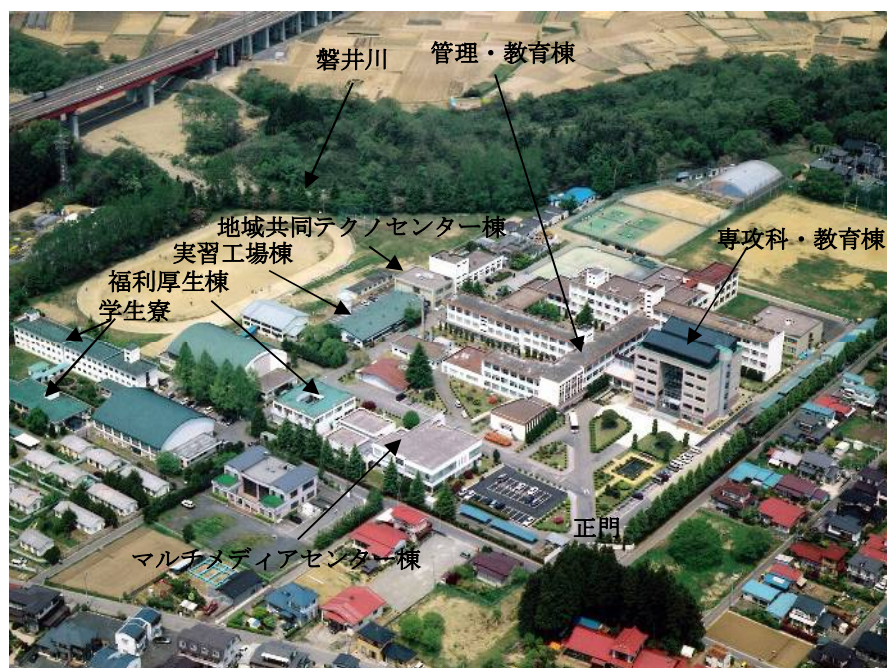


図3 学校航空写真

の出身です。岩手県は広大な県ですので、遠隔地出身の学生も多く、40%程度の学生が学生寮で生活しています。また、教職員数は107名で、教育活動はもとより、研究活動も学生とともに邁進しています。

本校では、特にプロジェクト形式の人財育成教育に注力しており、外部資金を活用して、「地域創生人財育成事業～EV（電気自動車）人財育成コース～」、「起業家人材育成塾プロジェクト」などを継続・展開しています。学生の特異な才能を発掘し、学生の自覚のもとに秀でた能力を持つ技術者を育成することも高専教育の得意とするところです。

これまでの本校卒業生数は、7000名を越え、製造業を中心とした各界で活躍しています。本科卒業生のうち、平均して40%程度が本校専攻科を含め、各大学へ進学しており、60%程度が就職している状況です。就職地域としては、岩手県内に約20%で残りは、関東地域を中心として各地で活躍しています。



図4 学科系統図

3. 学生生活

高専は高校1年生～大学2年生までの学齢の学生が同じキャンパス内で学生生活を送っている日本では数少ない学校種です。そのため、高専の学生は、その学生生活において大多数の高校生が経験し得ない貴重な学生交流を体験することができます。本校でも、高専ロボットコンテストや大学フォーミュラ大会などに部活動の形で取り組み、1年生から専攻科生まで一つのチームで取り組むことにより、先輩からのかけがえのない薫陶を受け、独特の高専スピリットを育てています。そのおかげで、高専ロボコンでは東北地区4連覇中であり、過去2度の全国優勝に加えて、昨年度は全国大会で3回目の優勝を果たしました。

その他、部活動としては、運動部が14クラブ、文化部が7クラブ、また本校の特徴として技術部の部門があり、機械技術部（ロボコン）、自動車部（学生フォーミュラ）、電子計算機部の、3クラブが活動しています。運動部や文化部においては、水泳部は10年以上前からシンクロナイズドスイミングに取り組んでおり、また、吹奏楽部も演奏会を開催して、毎年多くの市民の皆様にも成果を披露し、喜んでいただいています。また、高専では珍しいと思いますが、本校には応援団が部活動として活動しており、入学式やロボコン大会等で活躍しています。

4. 地域や社会との連携

本校は、岩手県南部における唯一の工学系高等教育機関として地域に認識いただいております。今日まで築き上げてきた地元産業界との様々な接点を活用して、人財育成や共同研究をはじめ、本校の教育活動に対してご支援をいただくとともに、本校卒業生人財の紹介・就職推進などの活動も行っています。その活動を支える組織体制としては、本校の地域共同テクノセ

ンター、および地域企業等を構成員とする教育研究振興会があります。また、本校と隣接する公的機関の県南技術研究センターとも密接に連携して、産学官連携体制を強化しています。

また、地域教育界との連携にも積極的に取り組んでおり、例えば、一関市教育委員会が主催し、市内の幼稚園から大学までが参加する「学校運営推進協議会」に参画し、出前授業の実施協力などを通じて、地域の高等教育機関としての役割を地域全体の連携のもとに果たしています。

本校は、今年、創立55周年を迎え、地域に根差したグローバルなKOSENであり続けることを目指して、日々邁進してまいりたいと思っております。

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.40

(C)著作権:2019 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門